

## 第2回石川町地域公共交通活性化協議会

日時：平成25年11月26日（火）14：00～16：00

会場：石川町共同福祉施設 2階 会議室

### 【議事次第】

1. 開会

2. あいさつ

3. 議事

議案第1号 石川町地域公共交通活性化協議会規約の一部改正について

議案第2号 石川町地域公共交通連携計画策定調査事業調査項目の追加について

議案第3号 石川町地域公共交通活性化協議会補正予算について

4. 報告・協議事項

(1)石川町における地域公共交通の課題、将来像等について

5. その他

6. 閉会

【出席者】

所属	役職	氏名	備考
石川町	町長	加納 武夫	
福島交通株式会社	石川営業所長	佐藤 秀男	
有限会社野本観光バス	代表取締役	野本 和義	
マルイチ新石川タクシー有限会社	マルイチすけがわ タクシーセンター長	小松 正朝	
有限会社三光タクシー	代表取締役	野崎 勇雄	欠席
東日本旅客鉄道株式会社水戸支社	水郡線営業所長	箕輪 敏夫	代理 助役 丹治 春男
社団法人福島県バス協会	専務理事	千代谷 俊行	欠席
一般社団法人福島県タクシー協会	県南支部長	金澤 寛二	
国土交通省東北地方整備局郡山国道事務所	調査課長	佐藤 幸喜	
福島県県中建設事務所	主幹兼企画管理部長	磯松 教彦	代理 企画調査課長 大竹和彦
国土交通省東北運輸局福島運輸支部	主席運輸企画専門官	兼平 悟	
ふくしま自治研修センター	総括支援アドバイザー 兼教授	吉岡 正彦	
全国自動車交通労働組合連合会福島地方本部	書記長	大槻 政好	欠席
福島県県中地方振興局	県民環境部副部長兼県 民生活課長	渡邊 昌明	
石川警察署	地域交通課長	平子 誠	
石川町区長会	会長	鈴木 健一	
石川町商工会	副会長	橋本 栄一	
石川町社会福祉協議会	副会長	永沼 栄一	欠席
石川町長寿会連合会	山橋地区長寿会連合会 事務局長	高原 栄紹	
石川町婦人会連絡協議会	会長	小林 ヒサ	
石川町 PTA 連絡協議会	会長	佐川 正美	欠席
福島県立石川高等学校	校長	安瀬 一夫	欠席
福島県立石川養護学校	校長	大関 彰久	代理 生徒指導主事 渡邊幸治
学校法人石川高等学校	校長	森 涼	代理 事務長 村上治朗

## 【議事録】

### 1. 開会

### 2. あいさつ

吉岡副会長 (ふくしま自治研修センター)	みなさん、こんにちは。副会長を前回拝命いたしました、ふくしま自治研修センターの吉岡です。よろしくお願い致します。 今日は2回目ということになりまして、前は8月でございますので、約3か月ぶりということになりますが、前はみなさま顔合わせで、今回の委員会の主旨作りというような見方だったかと思いますが、この3か月をかけて、お手元にありますように、町の公共交通の実態がまとまってきたようです。この辺、具体的な情報がたくさん出てまいりましたので、より具体的にご意見をいただけるのではないかと考えております。 今日はどうぞ、よろしくお願いいたします。
加納会長 (石川町長)	みなさん、今日のご苦勞さまでございます。一言ご挨拶をさせていただきます。 みなさま方にはご多忙のところご出席を賜りましてまことにありがとうございます。 本日の協議会では石川町地域公共交通活性化協議会規約の一部改正等の議案についてご審議をいただき他、石川町地域公共交通連携計画の策定に向け、地域公共交通の課題や将来像等について協議をしていただきたいと思いますと考えております。本町といたしましては、少子高齢化の進展に加え、小中学校の統合や、庁舎移転への対応など、将来を見据えながら、持続可能な公共交通体系をご検討いただきたいと思いますので、どうかみなさま方にはご理解とご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

### 3. 議事

#### ○議案第1号 石川町地域公共交通活性化協議会規約の一部改正について

(事務局から説明)

吉岡副会長 (ふくしま自治研修センター)	只今、事務局から、議案第1号についての説明がございました。 皆さま方から質疑、ご意見等がございましたら是非お願い致します。 ないようでしたので、議案第1号については原案の通り決定させていただいてよろしいでしょうか。  意見なし  それでは「議案第1号 石川町地域公共交通活性化協議会規約の一部改正について」は原案の通り承認することに決定をいたしました。 ここで、新たな委員として承認いただきました、福島県立石川養護学校様への委嘱状がお手元に配布されておりますけれども、ここで、福島県立養護学校さんから一言ごあいさつをいただきたいと思います。よろしくおねがいします。
渡邊委員 (石川養護学校)	校長は本日欠席でございます。申し訳ございません。 私、代理の生徒指導主事をしております、渡辺と申します。 本校、生徒が今年度は60名ほどおりまして、その約6割が電車やバスを利用して通学しております。今後ともこの会を通じまして、交通に関する情報交換等をしていけたらと考えております。よろしくお願いいたします。
吉岡副会長	ありがとうございます。

(ふくしま自治研修センター)	続きまして議案第2号、及び議案第3号、関連がございますので一括ご審議をお願い致します。
----------------	---

○議案第2号 石川町地域公共交通連携計画策定調査事業調査項目の追加について

○議案第3号 石川町地域公共交通活性化協議会補正予算について

(事務局から説明)

兼平委員 (福島運輸支局)	実際には当初の補助対象経費の方は、そっくり今の金額になったということで、先ほどの調査の追加については、これはただの関係者聞き取り調査というところまで対象範囲が広がったということで理解してよろしいでしょうか。 そうすると、これからも増えてもこの対象とするものは、増えるってことはなくて、それはこれ自体納まっているということですか。
事務局	現在の経費の中に納まっています。
吉岡副会長 (ふくしま自治研修センター)	他にございますか。 それでは議案第2号、第3号につきまして、原案通り決定させていただいてよろしいでしょうか。  — 異議なし —  それでは、議案第2号、第3号については原案の通り承認いたします。ありがとうございました。

#### 4. 報告・協議事項

(1) 石川町における地域公共交通の課題、将来像について

(資料説明)

吉岡副会長 (ふくしま自治研修センター)	まず、色々現状の報告がありましたが、事実の誤認、確認、質問がありましたら色々お出しいただければと思いますが、いかがでしょうか。書いてある内容にほぼ間違いはないでしょうか。
佐藤委員 (福島交通株式会社)	はい。一言、二言よろしいでしょうか。 大変素晴らしい資料で、私も驚いておりますけれども、まさに私どもが日頃感じていることでもありますけれども。その中で、通学の中で、学法石川高校さんにつきましてはスクールバスがありますが、県立石川高校さんの方で、乗り方が分からないというような話も出まして、路線バスの事業所としては説明に行かなく必要があるかなという気もいたします。 県立石川高校さんで、中島方面のバスが村で運行されているということでしたが、白河方面につきましては時間の変更もあるかなということも考えていました。 それから、石川・白河線につきましても県立石川高校さんの終業時間よりも早い時間に通過していくものですから、ここもちょっと15、20分遅らせてもいいかなと考えていたので、ここについて県立石川高校さん、養護学校さんと話していきたいと思っ てはいたのですが、また詰めていきたいなと考えています。
吉岡副会長	私もこれまで県内の色々な市町村のこういった計画のお手伝いをさせていただいてい

(ふくしま自治研修センター)	<p>ますが、今回の報告書はかなり細かくまとまっている資料になっていると思います。今、福島交通さんから話がありましたが、利用者さんにとってバスの便の時間を利用勝手がいいように見直してみたらどうかとご提案をいただいたところですが、何かそういう声をお聞きになったりはしていますか。</p>
渡邊委員 (石川養護学校)	<p>本校は、県立石川高校さんと違いまして、その年によって利用者数がかなり増減します。実際、部活動をやる生徒は遅い終了時間なのですが、現在部活動をしていない生徒の中にも、部活動に参加したい生徒はいると思うので、3時台に本当は帰りたい生徒ってというのは実際にいるのかなとは思っています。</p>
吉岡副会長 (ふくしま自治研修センター)	<p>今の議論は報告書では言えば40頁辺りですね。高校の最寄りのバス停の時刻表のところかと思えます。</p> <p>この報告書では赤で書いてありますけれど、下校時間のところで便の時間がこれでいいのかどうか見直しがあってもいいのとかどうか。</p> <p>本来は便数が増やせれば一番いいのかもしれませんが、限られた予算の中ですと、より利用勝手のいい時間帯を選ぶということになるかと思いますが。</p> <p>そうすると養護学校は毎年やっぱり利用時間帯が変わってくるということになるのでしょうか。</p>
渡邊委員 (石川養護学校)	<p>時間の問題は、生徒がこの地区は今年かなり卒業してしまったとかで変わるんです。本校は、部活動が始まったのが昨年度からなので、住んでいる場所によっては、本当は部活動がやりたいけれども、バスがないため参加しないという生徒も何名かいます。ただ、非常に人数が少ないので恐縮なのですが。</p>
佐藤委員 (福島交通株式会社)	<p>利用者が少ないということは、あまり考えなくてもいいのではないかと私は思っております。というのは、通学の場合、1人増えることによって年間通すと大きく変わってくるんです。</p> <p>恐縮なのですが、私は都市部で長く仕事をしていたものですから、利用状況を調べていきますと、運賃収入とかも都市部よりはぐっと低いのですが、通学者1人が増えることによって、例えば1ヶ月1万円払ったとしても年間12万ですよ。これが5人増えたら60万になる訳ですよ。意外に収入も変わってくるわけですね。ということは、石川町で負担する補助額についても減ってくると思います。たかが1人といいますが、その1人が非常に大事ということをよく分かっているつもりなのですが、そういったことがあれば、私も色々話を伺いたいと思っています次第です。この結果を見て私も正直それからどうしようかと考えております。これから県立石川高校さん、養護学校さん等とこれから詰めていきたいと思っている次第です。</p> <p>ここ1ヶ月以内くらいに、養護学校さんで大人数で社会科体験学習ということで、実際にバスに乗りしてみようということで、障害がある方でも乗れるように、学校の指導で実際に乗りしてみようということで、石川桜の発見もございましたし、つい今週の小学校の生徒さん6人からビデオを撮っていただいて、こういう風に利用するんだよということを指導していただいて、担当の先生からご紹介いただいたのですが、小学校の生徒さんがこれなら自信を持ってできそうという前向きな話をお伺いしまして、大変すばらしい活動だと感心しました。</p> <p>そういったことで、乗車効率等々拡大していけたら、私どもとしても大いに協力させていただきたいと考える次第でございます。</p>
吉岡副会長 (ふくしま自治研修センター)	<p>学法石川高校さんは基本的にスクールバスで対応されているということで、あまり公共交通の影響はないのでしょうか。</p>
村上委員 (学法石川高校)	<p>バス通学は古殿方面だけです。</p>
吉岡副会長 (ふくしま自治研修センター)	<p>時間帯としては特にご要望が生徒から上がっているということはないでしょうか。</p>

一)	
村上委員 (学法石川高校)	これは、ない物ねだりになってしまうのですが、どうしても体調不良起こしたりなんて時にバスがあればいいなとは思いますが。
吉岡副会長 (ふくしま自治研修センター)	その他いかがでしょうか。普段利用されている皆さん、あるいはタクシー会社さん含めて日頃生活されていて、バス、あるいはタクシー、鉄道に対してのご意見、要望などありましたらお出しいただきたいと思いますが。
渡邊委員 (石川養護学校)	私は、前任校がいわきだったので、同じ養護学校でも生徒数が非常に多かつたし、部活動の時間も月の計画がありまして、帰りの時間も、部活動がない日は早くなるのですが、それをバス会社さんと直接スケジュールのやりとりをしていたので、今後人数が増えたらそういったことをしても構わないのかなと考えております。 何々は入っているんですけど、今月のこの期間は乗りませんっていうのは私の方でも学校の方で分かるので、それを直接バス会社さんに FAX を通してやり取りさせていただいていたのですが、そういったやり方も今後出来るのかなと考えております。
吉岡副会長 (ふくしま自治研修センター)	それは一般利用客があまりない路線ということですか。
渡邊委員 (石川養護学校)	そうですね。学校から駅までの直通バスという形で、一般のお客さんも乗れるのですがほとんど利用がなかった。その線のときは一応こちらの予定を伝えてありました。
佐藤委員 (福島交通株式会社)	そういった情報って大変ありがたいですね。 6年生と3年生の小学校の生徒さんが、先週の水曜日から、「水曜日だけ乗りますよ」って話を伺ってまして、その時間の運転手には、万が一降車ボタンを押さなくても、養護学校の生徒さんが降りるかもしれないので、押してあげるんだよというようなことができるといいです。失礼ですけど顔写真をみんなに渡して。そういう情報って提供していただければ、情報を流していただきたいと思っております。 いわきの養護学校さんの件なのですけれども、どういうことかといいますと、路線バスにこの生徒さんが乗りますよと、全部メモしているのです。その日には、そのまま通過していくものを生徒さんが来る時間を言うてくれれば、中に乗り入れて、安全に正門の前の場所に専用のバスが入っています。
吉岡副会長 (ふくしま自治研修センター)	次に、目標、あるいは方針含めて、今日の全体についてということで結構だと思えますが、ご意見、ご質問があればいただきたいと思いますがいかがでしょうか。
兼平委員 (福島運輸支局)	確認なのですが、連携計画の目標、立案を作るまでで、2頁はスケジュールと(7)までということだと思うのですが、最終的に(8)の目標を達成するため(9)の実証までを含めて計画としては完成版とするという理解でよろしいですね。 それです、地域公共交通の事業一環としてやっていますが、調査事業の場合について、最終的に生活交通ネットワーク計画をつくっていただくことが目標ということで、先ほど言っていた資料の中にネットワーク計画といのも入っているので。補助金の話をするネットワーク計画というのは表的にはいわゆる実証の方ではなくて、実際の運行に対して国の補助が出るんですね。 実証の方だけだと、補助の対象にならないだとかなので、そういうことは今後、その内容を踏まえて最終的な結果になるという考えには持ってくると思います。 それから、もうひとつ、地域協働推進事業計画ですが、この協働推進事業をもしも将来的に活用しようという考えがあれば、この連携計画の中に協働推進事業についても触れていただく必要があるんですね。もちろん補助を使わないことも可能かと思うのですが、現時点でそういう可能性があるのであればそれについての記載を頭に入れつつやっていた方がいいのかと思います。

	協働推進事業を活用して、それを先ほど言ったネットワーク計画のリーダー補助もあるので。初めて手掛ける事業であれもこれもとはなかなか大変かと思いますが、そこはご検討いただいて、もしも可能であれば考えていただければと思います。
吉岡副会長 (ふくしま自治研修センター)	今の話はよろしいですか。事務局で詰めていただくということで。
事務局	はい。
吉岡副会長 (ふくしま自治研修センター)	<p>その他、みなさんいかがでしょうか。日頃の鉄道、バス、タクシーの利用に関して、なかなかジレンマがあって、予算が厳しい中でだんだん高齢者が増えてきて、利用者が少ないんだけど、廃止するわけにもいかないというところがあって、どういうかたちをとったら一番いいか、というところがそれぞれ各自治体で頭を悩ませているところであるわけです。</p> <p>石川町でも調査で分かったように、公共交通を利用されている方はあまりいないんですね。ここでは「自動車」と書いてありますが、「自家用車」と書いた方がいいかと思います。「自動車に乗らなくてもいい環境づくり」と書いてあるとバスもみんな自動車になるので、「自家用車に乗らなくても」ということで文言は直した方がいいと思います。</p> <p>いずれにしても公共交通に乗る人が少ないけれども、利用者は是非とも必要だというそういうニーズなのですよね。そこで、町としては2,800万円の財政の支援をしているところですが、そういった状態が果たして今後とも望ましいと考えるのか、あるいはさらにサービスを増やして、あるいは負担を増やしてもいいと考えるのか、逆に一部の利用だから一部が負担すればいいのではないのかというような考え方もあるかもしれないですね。その辺りをちょうど今アンケートで町民の皆さんにお聞きしているところでもありますけれども、もしその辺りに関してもみなさまのご意見があればお出しいただきたいと思います。</p> <p>いかがでしょうか。</p>
高原委員 (石川町長寿会連合会)	高齢者の外出問題なのですが、51頁に凝縮されていると思います。使いたい時間というのが一番大きいと思います。買い物できる時間に運行するバスがなくなった、というのが懸念されると思います。
吉岡副会長 (ふくしま自治研修センター)	高原さんの周りで、この利用したい時間というのは、例えばどんな利用を想定されますか。
高原委員 (石川町長寿会連合会)	ここに書いてあるように、買物の時間です。
吉岡副会長 (ふくしま自治研修センター)	たとえば、10時くらいにバスに乗れて、買物をして、12時くらいに戻ってくるような便があったらいいですか？
高原委員 (石川町長寿会連合会)	<p>はい、そういう時間もあればいいと思います。</p> <p>ただし、それをやっても今の社会では利用する人は少ないんじゃないかな。いわゆる高齢者と言うと我々の時代、我々の時代はクルマ社会ですから、この調整をどうするか、というのが一つの課題だと思います。</p>
鈴木委員 (石川町区長会)	<p>ちょっといいですか。</p> <p>実は私も買い物や通院に関しては送迎してもらっていますが、息子らが送ってくれなくなったらと考えると、最小限の移動手段は残しておけばいいんじゃないのかなと思います。一日に何度も走るのは大変だと思います。</p>
吉岡副会長 (ふくしま自治研修センター)	最小の形。やっぱり廃止ではなくて、細々としていても何かそういった手段は残しておいた方がいいということでしょうか。例えば、週1、2便であっても残しておいてほ

治研修センター)	しいということになるのでしょうか。
鈴木委員 (石川町区長 会)	普段は自家用車を使っていますからね。75 過ぎ近くなるとそうそう運転はできないからね。 そういう時に息子なんかを送ってくれるかという、そう簡単にはいかないじゃないですか。
吉岡副会長 (ふくしま自 治研修センタ ー)	ええ、心苦しいという意見が多くありましたね。 小林さんはいかがですか。日常の利用でのバスの利用については。
小林委員 (石川町婦人 会連絡協議 会)	そうですね、商店街にお店がないので、交通機関がよければ買い物していけるますね。
吉岡副会長 (ふくしま自 治研修センタ ー)	大型店の方ということですか。なるほど。
野本委員 (有限会社野 本観光バス)	交通事業者の意見ではなくて、町民の意見としてですが、路線バスの時間帯が、買物の時間と合わないということで、今後、小中学校の統廃合もあって、スクールバス運行の計画が進んでいる中で、その日中の空き時間を使って、路線バスに頼らずできるだけ経費を掛けずに工夫すべきだと思います。 どちらかという路線バスは、長距離タイプなので主要の県道、国道を中心に走っていますので、ただ学校が終わる時間の子どもたち、あと病院が終わって、商業施設に行く場合などにもっと町民の交流の場を作れるのではないのでしょうか。 年寄りから若い者から、そこを巡回バスで周って集めて、そこから路線バスが出る場所にする、こういった人口が減っている中で、町民の中の年配の方から若い方までのコミュニケーションが少なくなっている、そういったところも全部含めて、そういった形を作れたらいいのかなと思います。 それから路線に関しても、切ることも大切だと思います。 その浮いた予算でこういったコミュニティバスとか、巡回バスみたいなところに当てるというのも一つの方法かなと。どうしても、必ず残さなきゃならないってこともこれからは思い切った改革をしていかないと、限られた予算の中でやっていくには必要だと思います。
吉岡副会長 (ふくしま自 治研修センタ ー)	ありがとうございます。 その他はいかがでしょう。 今ある資源を利用するというか、スクールバスなり、空きがあればそういった車両を上手く利用するというのも一つではないか、ということですよ。 あと、この石川町の場合には病院バス、これから調査していただくようですが、それぞれの病院が病院バスを出している、場合によってはそれをもっと上手く効率的に利用するとか、そういったことも考えられるのかもしれないですね。
野本委員 (有限会社野 本観光バス)	お聞きしたいのですが、病院バスがありますよね。あれは基本的に私用目的が、自宅と病院の間の送迎で取っている、それが民間の商店街に立ち寄りといったことは基本的には無償であっても問題はないのですか。
兼平委員 (福島運輸支 局)	そうですね。所謂白ナンバーの自家用バスなので、今は道路運送法も前と変わって、他人の需要に応じて、有償でということに入っていますが、だからといって無料だったらどういう風な使い方をしていいかと言うとそうではありません。 あくまで、自家用ですので、自家需要の範疇となりますので、当然、病院が自分の患者さんのために運ぶというところはいいのですが、病院がそれとは全く違う利用目的になってくると、いわゆる通院目的からは外れてきます。病院で降りて、隣にあるお店で買い物をする程度ならいいかもしれませんが、明らかに通院の経路と違うところに寄るとなってくると、それは自家需要の範囲からは外れてくるというように思いま



	<p>す。</p> <p>通常の旅館やホテルの送迎バスも持っていますが、それも基本的には自家需要の範囲であって、どこまでもお客様の要望なら遠くまで行ってもいいのではなくて、ある程度最寄りの駅だとか指定をしているので、どこまでもいいのではなくて常識の範囲になります。</p> <p>せっかく走っているのだから、こういう利用にも、ああいう利用にもとなってくると、利用目的から外れてくるのではないかなと思います。ケースバイケースではあるのであまり機械的に線引きするのも難しいのですが。</p>
吉岡副会長 (ふくしま自治研修センター)	<p>その辺は各地で色々と実験的に苦勞しているというか、国なり、県なりのご意見を伺いながら地元で工夫をしているところはあって、基本的には無償であれば、誰にも関与されないわけですね。</p> <p>病院バスという形になると、お話に合ったように問題があるかと思いますが、よくあるのは商店街がボランティアとして任意にバスを出すという場合がありますよね。地元の任意の形でサービスしているのであれば、それは「商店街に行くから、一緒に乗せてあげるよ」という範囲と同じような理解も可能ではあるのでしょうか。</p>
兼平委員 (福島運輸支局)	<p>ボランティア輸送というのはなかなか難しいところですね。</p> <p>実際に運送すれば経費がかかる訳ですから、その経費はどうするのだと言ったら、全く無償でとなると走っている人からすればどうやって経費を賄っているのかとなります。したがって、法的には、有償でやっているものは事業だというもの、じゃあ無料の範囲を広げてしまうと、本業ができなくなってしまいます。本来の事業許可を取っている人の事業の部分についても考えていかななくてはいけないという部分もあります。</p> <p>ただその主旨から外れない範囲で自家用車を上手く活用するというのはオッケーです。ボランティアの部分でも施設の運営の部分で、通常自家用バスに乗っている方が、普通のバスに乗ってももったいないので、地域の方々がたまに町に出る時に「いいですよ」と乗せていくのはいいですけど、それが常態的になってしまうと、お金を取らずにほとんど情に近い状態になってしまうと果たしてどうなのかとなってきます。</p> <p>石川町で自家用バスの活用でこういったことをしたいという時は、ご面倒ですがご相談いただきたいと思います。こちらも慎重に出来るものと出来ない物の判断をできればなと思っております。</p>
吉岡副会長 (ふくしま自治研修センター)	<p>といった状況なので創意工夫を通じて、なるべくお金をかけないでサービスを提供するという事は考えてもいいだろうとは思いますが。</p> <p>そろそろお時間ではありますが、何かご意見はございますか。</p> <p>将来の方向性辺りでもいかがでしょうか。</p>
佐藤委員 (福島交通株式会社)	<p>一つだけよろしいですか。</p> <p>小中学校の専用スクールバスについてですが、この中で鳥内方面につきまして、場合によっては路線バスでも運行が可能かと思えます。そうすると、石川町民さんのことを考えると負担金が少なく済むのではないかと。要するに、路線バスで単独運行しながら、それとは別にスクールバスの費用をかけるのであれば、路線バスで対応すれば2重の負担がなくなってくるのではないかと思います。</p> <p>将来的に、負担も少なくなり、路線バスも残っていける、将来にわたって利便性も高まってくるという観点からみますと、こういったことをする必要もあるのではと思えます。</p>

## 5. その他

## 6. 閉会